

子どもの家庭内事故を防ごう！

☎ 消防課 26-0297

乳幼児の事故の7割は家庭内で発生しています。小さい子どもは視野が狭く、バランス感覚も未熟。好奇心のまま、何でも口に入れたり、高い所に登ったりします。周囲の大人が環境を整えることで多くの事故は防げます。日々の生活の中で「事故予防」と「もしもの時の対応」を意識しましょう。

お盆などで小さな子どもが家に来る機会が増えるこの時期。保護者も受け入れる方も注意が必要です！



事故予防

①誤飲を防ぐ

トイレトーパーの芯を通る大きさの物は、飲み込んで窒息する危険があります。特に危険なのがボタン電池や薬、たばこ、磁石。誤飲する可能性のある物は子どもの手の届かないところに保管しましょう。



②転落を防ぐ

ベッドや階段には柵やストッパーを設置しましょう。「ちょっと目を離した隙に」が一番危険です。

③溺水を防ぐ

子どもは浴槽やバケツに残った数升の水でも溺れることがあります。小さな子どもがいる時は、入浴後すぐに浴槽の水を抜くようにしましょう。

もしもの時の対応

「救急車を呼ぶべき？」
「休日受診できる病院は？」
救急が迷った時は#7119へ電話相談ができます。



消防隊員に学ぶ！ こどもの事故予防と応急処置講座

事故の危険や応急手当を消防隊員から学びます。

□とき 9月27日(土)午前9時50分～11時半

□ところ 市消防防災センター

□定員 15人

□申し込み方法 申し込みフォームから申し込む。

□その他 未就学児の無料託児あり。(先着10人)

☎・📍 社会教育課 26-6853



市ウェブサイト
応急処置
講座のページ

廃油を使って光熱費節約！ 空き缶コンロを作ろう

災害時にも活躍！ さまざまな大きさのスチール缶を使ってコンロを作ります。作ったコンロは持ち帰れます。

■とき 8月10日(日)、17日(日) ①午前10時～正午 ②午後1時～4時

■対象 小学生以上(親子参加可)

■料金 無料 ■定員 計30組(先着順)

■申し込み方法 前日までに電話で申し込む(当日参加可)。



■平日祝：午前10時～午後8時
■土 日：午前9時半～午後8時



Instagram



ホームページ



YouTube



Facebook

本格ペルー料理教室

ペルー人の先生とペルー料理にチャレンジ！ スペイン語も交えながら楽しく料理を学びます。

■とき 8月17日(日)午前10時半～午後1時

■対象 どなたでも(親子参加可) ■定員 6組

■講師 下川マリア氏

■持ち物 エプロン、三角巾 ■料金 1,000円

■申し込み方法 申し込みフォームから申し込む。



笑顔で作る終活ノート講座

相続を「争続」にしないため、大切な家族に思いを伝えるため、事例を交えて分かりやすく終活を学びます。相続ノートもプレゼントします！

■とき 8月27日(水)、9月6日(土)午後1時半～3時半

■対象 相続や終活に興味がある方 ■定員 各5人 ■料金 500円

■講師 西尾教彦氏

■持ち物 筆記用具

■申し込み方法 申し込みフォームから申し込む。



8月27日
申し込み
フォーム

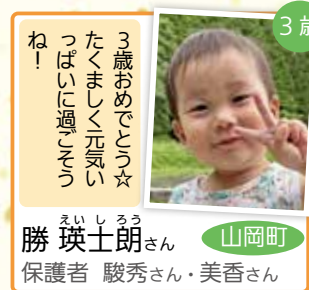


9月6日
申し込み
フォーム

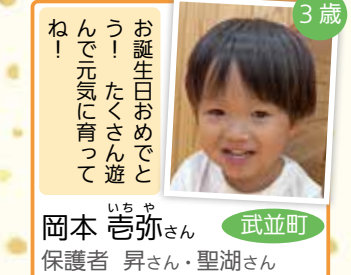


出生おめでとう
(6/16～7/15 届出分)

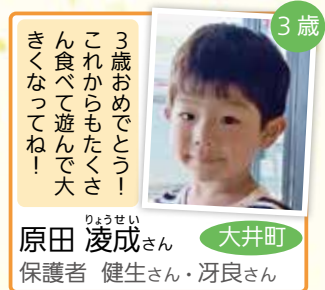
() は保護者



保護者 駿秀さん・美香さん



保護者 昇さん・聖湖さん



保護者 健生さん・冨良さん



誕生日
おめでとう！

8月
生まれ



9月に1歳・2歳・3歳になるお子さんの写真を募集します！

■申し込み方法 申し込みフォームから申し込む。

■申込期限 8月15日(金)

※土日祝を除き3日以内に掲載可否を連絡します

※掲載は先着8人(初掲載の方を優先)

申し込み
フォーム▶



送る前に確認ください！

- ☒ 1人で写っているか
- ☒ 顔全体と胸から上が写っているか
- ☒ 頭が切れていないか



写真例



親子で 救命講習

串原中学校



人工呼吸
に挑戦！



3年生
安藤 摩斗生さん

技術より、いざという時に動ける勇気と行動力が何より大切だと思います。緊急時でも迷わず行動できるよう、定期的に救命を学び、知識を身に付けたいです。

地域ぐるみで救命救急を学ぶことができうれしいです。

「人が倒れています！」と助けを呼ぶ生徒。今日は親子救命講習の日です。救急車の到着に時間がかかる地域にある同校では、全校生徒16人が普通救命講習Iを取得しています。今回、胸骨圧迫やAEDの使い方を再確認するとともに、訓練の大切さを広く伝えようと、保護者を招いて実施しました。「サウナで40代男性が倒れていた」と現場を想定した演習では、生徒らが自ら考えて救命を実践。「絶え間なくリズムよく」など、胸骨圧迫のこつを学んだ保護者も救命に挑戦しました。いざという時、大切な人を守るため、子から親へ、救命の輪が広がりました。

